

医療社会科学Ⅱ 〈A4〉

教員名

教養・医学教育大講座 医療社会科学
准教授 本郷 正武

I 一般学習目標

現代医療が産み落とした諸問題が、どのように解釈され、解決されてきたのかを講義する。とりわけ、医療現場を取り巻く社会環境の変容を把握することで、諸課題を理解することをめざす。

II 個別学習目標

下記のような「社会の謎解き」の方法論と先行研究、具体的事例を学んで欲しい。

- ・現代社会で「あたりまえ」とされていることをいったん「疑う」
- ・「あたりまえ」となるまでのプロセスについて見る目を養う
- ・医療を通じて社会（問題）について把握できる分析視角を得る
- ・個々の患者がもつ背景を見る目を養う
- ・医師が引き起こした「意図せざる結果」が生起するメカニズムを理解できる
- ・こんにちの医療をめぐる言説のあり方を概観できる
- ・ジェンダーの差異による問題の受け止め方の相違を見る目を養う
- ・医薬品規制をはじめとする現代医療を取り巻く諸制度を理解できる
- ・医療化／製薬化概念などを用いて現代医療の進展について考察することができる
- ・未知の病いや危機への対処の方法について考察できる
- ・依存症をめぐる社会的次元における諸課題を理解できる

III 教育内容

以下のように講義を進める。進度により内容が前後することがある。

1. イントロダクション
2. 不妊治療が課す困苦（1）——不妊治療の現在
3. 不妊治療が課す困苦（2）——誰が何に苦しむのか
4. 不妊治療が課す困苦（3）——治療に求められるもの
5. 不妊治療が課す困苦（4）——生殖技術における社会的次元の問題
6. 依存症の世界（1）——薬物依存症の捉えられ方
7. 依存症の世界（2）——アルコール依存症とその回復
8. 依存症の世界（3）——刑罰の対象か治療の対象か
9. 「医療崩壊」の現実（1）——医療をめぐる言説の検討
10. 「医療崩壊」の現実（2）——医師の置かれた立場
11. 「医療崩壊」の現実（3）——立ち去り型サボタージュとは

IV 学習および教育方法

講義形式。適宜、映像資料や配付資料により先行研究ならびに具体的事例を提示する。

V 評価の方法

期末試験。講義後に課すコメントペーパーの内容が優れている場合は加点する。

VI 推薦する参考書

講義中に随時紹介する。